【明治５年創刊】明治25年３月８日 第３種郵便物認可 ©毎日新聞社 2019

MAINICHI
毎日新聞
11月29日（金）
2019年（令和元年）
発行所：東京都千代田区一ツ橋1-1-1
〒100-8051　電話(03)3212-0321
毎日新聞東京本社

号外

中曽根元首相死去

101歳、「戦後政治の総決算」

長期政権を担った中曽根康弘（なかそね・やすひろ）元首相が29日午前7時22分、東京都内の病院で死去した。101歳。冷戦末期の1980年代前半から後半の約5年間、政権を担当。レーガン元米大統領との「ロン・ヤス関係」をはじめとする首脳外交を展開。内政でも国鉄分割・民営化など行財政改革に実績を残した。

中曽根氏は旧憲法下最後の47年の衆院選で、群馬3区（当時）から初当選。以来20回連続当選し、2003年の引退まで56年余、衆院議員を務めた。若手のころから論客でならし「青年将校」と呼ばれた。河野派を受け継いだ中曽根氏は佐藤政権批判の先頭に立っていたが、67年、佐藤内閣の運輸相として一転して入閣し、「風見鶏」と皮肉られた。この経過を中曽根氏は自著「自省録」で、「将来総理を目指すための派閥戦略」と記している。

田中内閣で通産相、三木内閣では自民党幹事長、福田内閣で同党総務会長、鈴木内閣では行政管理庁長官を歴任し、82年11月に首相に就任した。「戦後政治の総決算」をスローガンに掲げ、外交面では日米関係の「軍事同盟」色を強めた。米国への武器技術供与を「武器輸出三原則」の例外扱いとする閣議了解を手土産に臨んだ83年1月の訪米で、「日本列島を不沈空母に」と発言。内外に反響を呼んだ。

内政面では、第2次臨時行政調査会（土光臨調）が答申した国鉄改革で大きな成果を上げた。「国鉄は行革の203高地」と位置付け、86年11月に国鉄分割・民営化の関連8法を成立させた。

靖国神社参拝も積極的で、85年8月15日に首相として戦後初めて公式参拝した。藤波孝生官房長官が直前に、私的諮問機関の勧告を踏まえ「首相の公式参拝は憲法違反ではない」との談話を発表するという段取りを踏んだうえでの参拝だった。しかし、中国などから猛反発を受け、以後参拝を取りやめた。

86年には「死んだふり解散」で勝負をかけ、7月の衆参同日選で、自民党を衆院304議席の圧勝に導いた。中曽根氏は同年、総裁任期（2期4年）が切れる予定だったが、自民党は選挙結果を受け、総裁任期を1年延長できる特例規定を設け、中曽根氏は続投した。

政権末期の87年2月、行財政改革の延長線上で売上税導入の関連法案を国会に提出したが、中小企業などの大反対で廃案に追い込まれた。また、教育基本法改正を視野に臨時教育審議会（臨教審）を設置したが、法案提出には至らなかった。

ロッキード、リクルート事件ともにかかわりが指摘され、77年4月には衆院ロッキード問題調査特別委員会で証人喚問され、疑惑を全面的に否定。リクルート事件に絡んでは89年5月、衆院予算委員会で証人喚問を受け、自民党を離党したが、2年後に復党した。

03年11月の衆院選で小泉純一郎首相に「引導」を渡され、いったんは拒否したが、結局衆院議員を引退した。引退後も、自民党新憲法起草委員会の小委員長として憲法改正問題に取り組むなど、精力的な政治活動を続けていた。

インタビューに答える中曽根康弘・元首相＝東京都港区で2016年10月27日、武市公孝撮影

購読お申し込み　毎日新聞のニュースサイト https://mainichi.jp/　専用フリーダイヤル 0120-468012（ヨムハマイニチ）